

## 2017年総合生活改善についての談話

### 1. 自動車総連全体の取り組み経過について

- 自動車産業は、完成車メーカーのみならず、車体・部品製造、販売・サービス、輸送など、様々な業種で働く組合員一人ひとりが企業基盤強化にむけた役割と責任を果たすとともに、お客様や社会に対する新しい価値の創造・提供、産業の持続的な発展に、バリューチェーン全体で貢献してきた。
- そうした中、2017年総合生活改善の取り組みでは、「働く者の将来不安の払拭と日本経済の自律的成長」にむけた道筋を示すべく、賃金引上げの流れを「継続」し日本経済をプラスサイドに置き続けること、および、中小・非正規労働者の取り組みを通じて総合生活改善の構造を「転換」することへの強い意思を自動車総連全体で確認した上で、各単組が強いこだわりを込めた要求を構築し、全体で1,084単組が単純平均で3,307円の「賃金改善分」を要求した。  
とりわけ規模の小さい単組ほど積極的な要求を掲げたことと併せて、「非正規労働者に関する取り組み」についても、賃金、一時金、企業内最低賃金協定に関する要求・要請など積極的な取り組みが進められており、底上げ・格差是正を実現したいという自動車総連全体の強い思いが示された。  
「一時金」についても、組合員の努力・頑張りに報い、今後の意欲・活力の向上につながる要求を行うとともに、「働き方の改善」についても、職場に現存する障壁を取り除き、全体の生産性向上に資する話し合いを進めている。
- 2月15日（水）の統一要求提出日以降は、全体の交渉環境づくりを担う拡大戦術会議登録組合（12組合）が先行的に交渉をリードし、その中で、「人への投資の重要性」はもちろんのこと、「職場の生産性向上」、「全体の底上げ・格差是正の必要性」、「求める経済・社会の実現にむけた自動車産業労使の果たすべき責任」などを力強く主張してきた。一方、経営側は、「日本経済を自律的成長に導きたいという思いは労使共通」としながらも、「将来にわたっての競争力低下の懸念」の観点、更には、足下の「不確実性の高まり」や「収益環境の変化」などを理由に、具体的要求水準に対しては慎重な姿勢を崩さず、労使の隔たりは残されたままとなった。
- こうした中、3月11日（土）の第3回中央生活闘争委員会において、「全ての単組は、底上げ・格差是正を実現したいという強い思いにこだわった回答引き出しを図るべく、昨年獲得実績を強く意識し、交渉を精力的に追い上げる」、「先行的に回答引き出しにあたる拡大戦術会議登録組合（12組合）は、そうした自動車総連全体の強い意思を形にすべく結束し、最終盤の交渉を機動的に追い上げる」ことを、賃金における「回答引き出しに向けた基本態度」として確認した。
- 各単組は、この決意のもと、膠着状態を打開すべく各自の要求や根拠に込めた強い思いを徹底的に主張し、要求実現にむけて職場と一体となり交渉を追い上げている。
- なお、付加価値の「WIN-WIN最適循環運動」については、2月3日（金）に4つの大項目からなる「自動車総連全体テーマ」を決定し、各労連において経営者と意見交換を進めている。また、「WIN-WIN最適循環運動」と車の両輪をなす自工会・部工会の「自主行動計画」に関しては、交渉期間を含めて、メーカーおよび部品企業の労使間で、下請代金支払の適正化をはじめ、重点課題への対応など、前向きな検討がなされていることを確認している。

## 2. 拡大戦術会議登録組合（12 組合）の回答状況について

○本日 14 時 30 分現在、拡大戦術会議登録 12 組合のうち、9 組合が回答を引き出した。

<賃金>

○12 組合が結束し最後の最後まで粘り強い交渉を尽くした結果、全体では比較可能な 2002 年以降で初めてとなる 4 年連続での賃金改善分を獲得するとともに、3 月 11 日（土）第 3 回中央生活闘争委員会<確認事項>の「回答引き出しに向けた基本態度」に沿った回答内容となっている。

○このことは、本年の取り組みの狙いである、経済をプラスサイドに置き続けるための賃金引き上げの「継続」と、中小、非正規労働者に対する底上げと格差是正の一層の前進という総合生活改善の構造「転換」に資するものであり、自動車産業労使に対する社会の期待の観点からは、その役割を一定程度果たし得たものと受け止める。

○また、賃金引き上げの必要性や要求に込めた思い、すなわち組合員一人ひとりが果たしてきた労働の質的向上に対する「評価」、組合員が示した将来への決意に対する「期待」と「信頼」、更には、日本経済の自律的成長にむけて労使が果たすべき「責任」を粘り強く訴えてきたことが結実したものと受け止める。

○それと同時に、現在の回答引き出し状況が、これから本格交渉を迎える中堅・中小組合の交渉の土台となり、業種や企業規模にかかわらず、広く自動車産業内外に波及し、全体の底上げ・格差是正につながっていくことを強く期待したい。

<個別賃金>

○現在までに回答を引き出している 9 単組全てで、個別賃金についての回答を引き出した。

<非正規労働者に関する取り組み>

○現在までに回答を引き出している 9 単組全てで、組合員化した非正規労働者については、時給や日給の引き上げ、一般組合員に連動した賃金・一時金の獲得など、前進を図ることができた。また、一般組合員の結果を上回る回答も見られていることや、組合員化していない非正規労働者に対しても一部進展が見られるなど、処遇改善の流れが全体へと拡がりを見せつつある。

<一時金>

○現在までに回答を引き出している 9 単組のうち、6 単組で満額獲得となった。また、3 単組で昨年を上回る回答を引き出した。このことは、この一年間の組合員の努力・頑張りりと成果に報い、更なる意欲・活力に結びつけるべく、各単組が最大限取り組んだ成果と評価する。

## 3. 今後の進め方について

○中小を含めた自動車総連全体の取り組みは、今後、車体・部品部門、販売部門、輸送部門、一般部門がヤマ場を迎えることとなるが、全ての単組は、各労連が策定した戦術のもと、全体の底上げにむけて等しく役割と責任を果たしていく。

○3 月 15 日（水）から 3 月 24 日（金）の間で集中的に、各要求項目について同時回答を引き出し、回答指定日の重みを踏まえて、車体・部品部門については 3 月末決着、販売部門は昨年よりも一日でも早い決着を強く意識して、早期解決に取り組み、自動車総連全体では遅くとも 4 月末までの決着を図るべく最大限努力する。

○我々自動車総連は、「全体の底上げ・格差是正」にむけた全ての単組の強い思い、そして、「働く者の将来不安の払拭と日本経済の自律的成長」にむけた自動車総連全体の強い意思を形にすべく、引き続き自動車総連一体となって、最後の最後まで交渉を追い上げる。

以上